



## グローバル・フィンテック市場のトレンド

2023年12月

レポートの内容については  
[info@asia-bc.com](mailto:info@asia-bc.com)にお問い合わせください

# グローバル・フィンテック市場

# フィンテック業界の主要サブセクター



- ▶ フィンテックのうち、特に決済、レンディング、バンキングテクノロジー、インシュアテック、ウェルステックは注目分野
- ▶ 本レポートにおいてはフィンテック企業を下記の5つに分類し、それぞれのサブセクターにおける金融機能は下記の通り

## 決済

- ✓ オンライン決済
- ✓ 後払い (Buy Now Pay Later「BNPL」)
- ✓ 決済処理サービス

## レンディング

- ✓ デジタルレンディング
- ✓ レンディングSaaS・ソフトウェア

## バンキングテクノロジー

- ✓ バンキングSaaS・ソフトウェア (金融機関向けの口座管理システム、リスク管理システムなど)
- ✓ デジタルバンク (ネオバンク)

## インシュアテック

- ✓ 保険業界向けSaaS・ソフトウェア
- ✓ デジタル保険販売

## ウェルステック

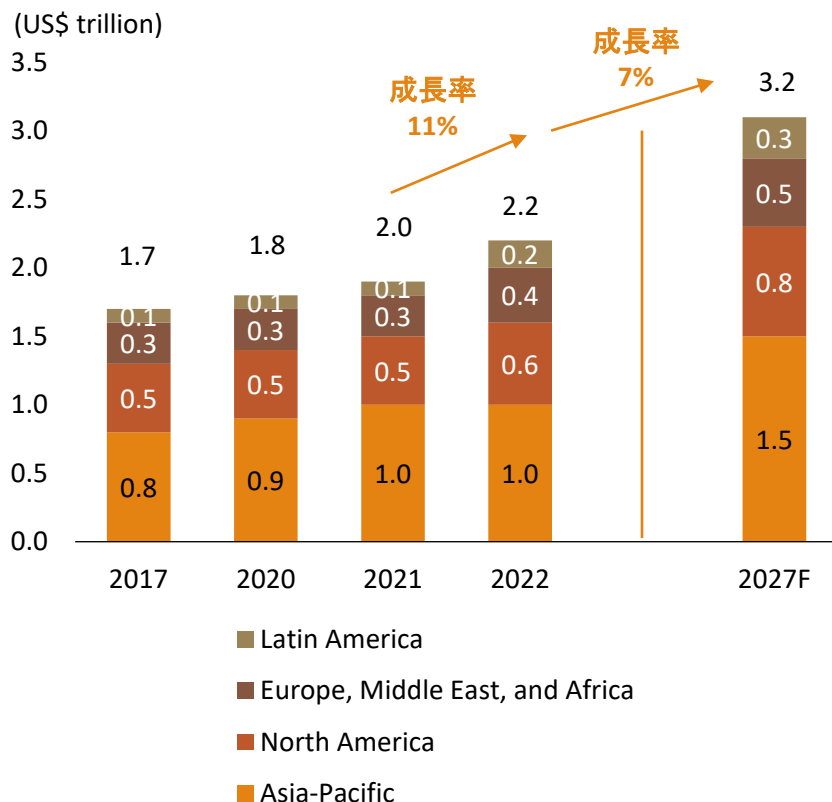
- ✓ ロボアドバイザー
- ✓ デジタルブローカー、オンライン  
レーディングプラットフォーム

# グローバル決済市場規模



- ▶ グローバルの決済市場は、2022年に決済事業の収益ベースでUS\$2.2 trillionとなり、前年より11%増
- ▶ デジタルウォレット等のキャッシュレス決済手法はコロナ以降急成長。デジタル決済回数も今後5年間で年間15%成長見込み

## ■決済ビジネスの収益ベース市場規模



注: 決済ビジネスの収益は取引手数料のほか、決済用口座及び金利収益を含む

	CAGR	
	2017-2022	2022-2027F
グローバル	6%	7%
ラテンアメリカ	14%	11%
ヨーロッパ、中東、アフリカ	7%	6%
北米	5%	6%
アジア大洋州	5%	8%

### 今後のトレンド

- ▶ エンベデッドファイナンスとして、様々なサービスに決済機能を組み込み、新しい顧客体験を提供。金融機関や従来の決済会社によるテクノロジーの開発或いはテクノロジー企業との協業が今後の注目
- ▶ キャッシュ決済の使用率は2022年にグローバル全体で4%減、特にインドではキャッシュ決済が2022年において総取引の82%であったのが2027年に34%まで減る見込み

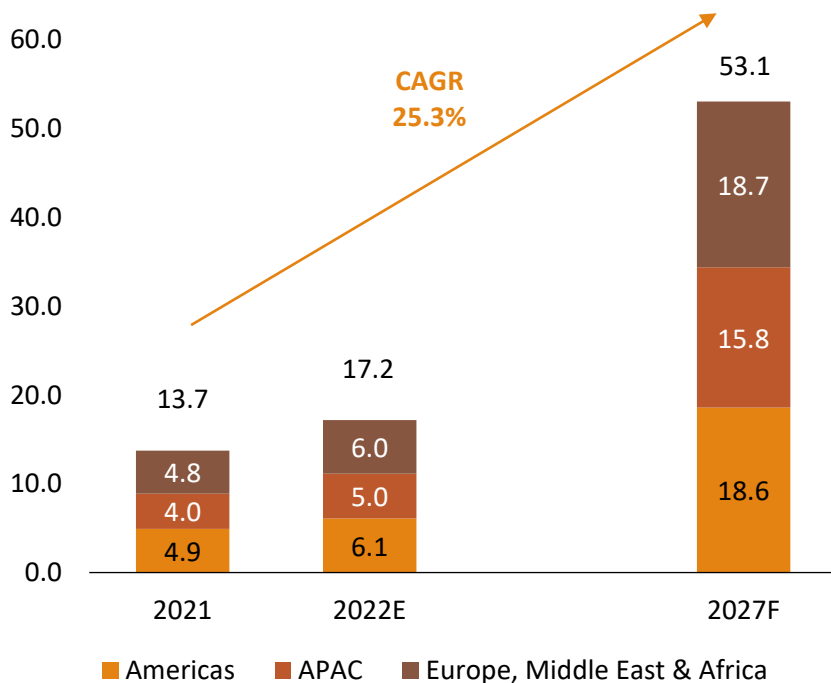
# グローバルレンディング市場規模



- デジタルレンディング市場は2021年にUS\$13.7 billionであったのが、2027年にUS\$53.1 billionまで、年間25%超成長する見込み
- インターネットバンキングの普及に伴い、融資プロセスのデジタル化も加速

## ■デジタルレンディングプラットフォームの市場規模

(US\$ billion)



CAGR

	2021-2022E	2022E-2027F
グローバル	25.1%	25.3%
ヨーロッパ、中東、アフリカ	25.1%	25.3%
アジア大洋州	26.9%	25.6%
北米・南米	23.7%	25.0%

### 今後のトレンド

- 銀行、信用組合、P2Pレンダー、リテール銀行などがデジタルプラットフォームを活用してレンディングビジネスを行うことが増えている
- ブロックチェーン、AI(人工知能)、ML(マシンラーニング)、アナリティクス等のテクノロジーの進化に伴い、融資プロセスにテクノロジーを組み込む銀行・企業が更に増える見込み。テクノロジーを通じて、意思決定を効率化し、不正対応も強化

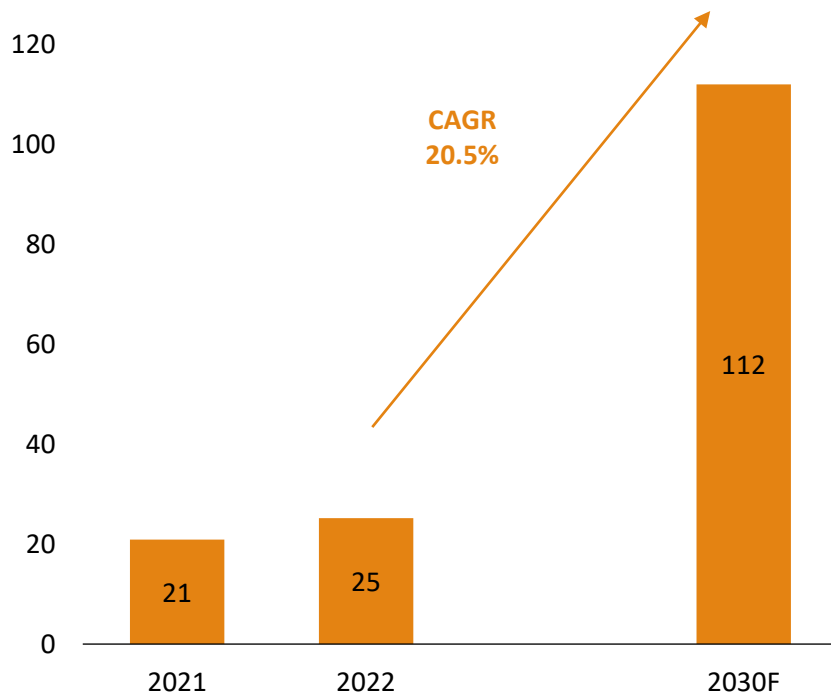
# グローバルバンキングテクノロジー市場規模



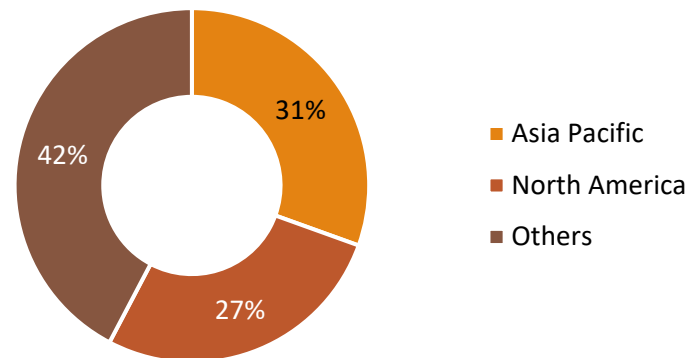
- 2022年にデジタル・バンキング・プラットフォームの市場規模はUS\$25 billionで、2030年にUS\$112 billionまで年間20%超成長見込み
- 消費者は便利で安全なバンキング体験を求めることから、バンキングテックの需要が増える

## ■デジタル・バンキング・プラットフォームの市場規模

(US\$ billion)



2022年地域ごとの市場規模比率



### 今後のトレンド

- AI(人工知能)とML(マシンラーニング)がデジタル・バンキング・プラットフォーム活用され、パーソナライズ顧客体験、プロセス自動化、不正検知、リスク管理等を行う
- オープンAPIの使用も増え、銀行とフィンテック企業との間で安全なデータ連携がより可能になる

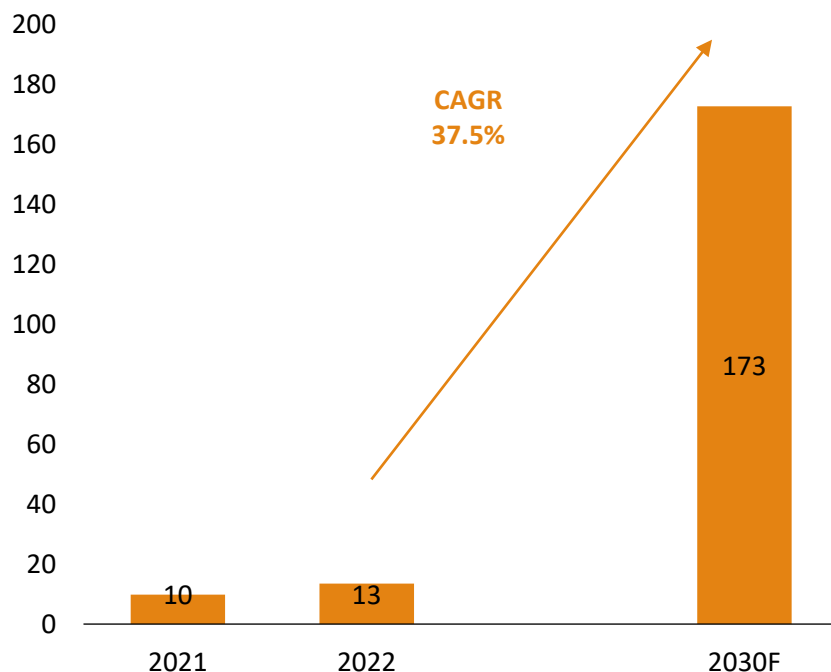
# グローバルインシュアテック市場規模



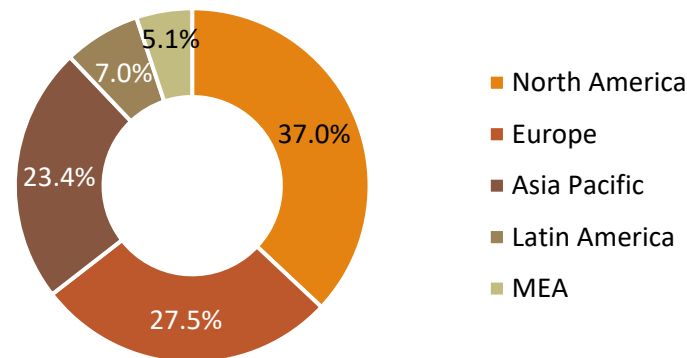
- 2022年のインシュアテック市場規模はUS\$13 billionで、2030年にUS\$173 billionまで年間37%超で成長見込み
- プラットフォームを通じたエンベデッド保険の提供、保険金請求プロセスの簡素化、顧客体験の改善や自動化等からインシュアテック市場が成長すると予想される

## ■インシュアテックの市場規模

(US\$ billion)



## 2021年地域ごとの市場規模比率



## 今後のトレンド

- ブロックチェーンやAI(人工知能)を保険事業に導入する会社が増え、テクノロジーを通じて保険のバリューチェーンを改善
- 保険会社はテクノロジープラットフォームと提携し、顧客にエンベデッド・インシュアランスを提供

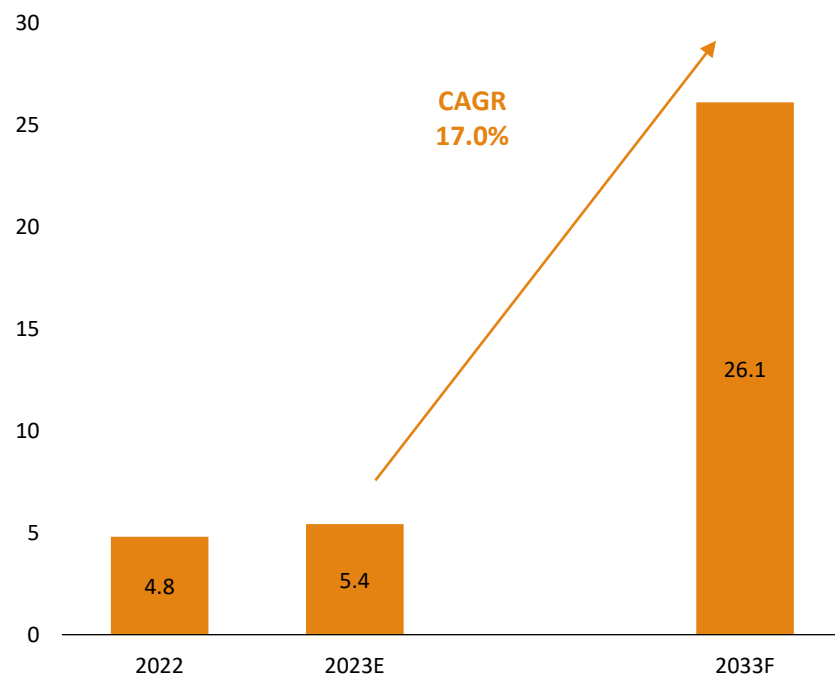
# グローバルウェルステック市場規模



- 2022年にウェルステック市場はUS\$4.8 billionに達し、2033年にUS\$26.1 billionまで毎年17%成長見込み
- テクノロジーの進化とデジタル化された効率的な投資ツールの増加に伴い、ウェルステックの需要が増えている

## ■ウェルステック・ソリューションの市場規模

(US\$ billion)



### 地域ごとの市場規模

- ウェルステックにおいて北米が最大市場であり、次いでヨーロッパ。いずれもフィンテック市場が先進的で成長率も高い
- インド、中東、東南アジアでは富裕層の顧客からの需要が増えており、今後ウェルステック市場がさらに成長すると見込まれる

### 今後のトレンド

- 金融機関はウェルステックにも投資しており、顧客エンゲージメントをデジタル化。個人向けの投資サービスにもAI(人工知能)等のテクノロジーを導入
- デジタルネイティブのZ世代やミレニアル世代も金融サービスの需要が増え、今後はデジタル体験を提供できるウェルステックの成長が継続すると見込まれる

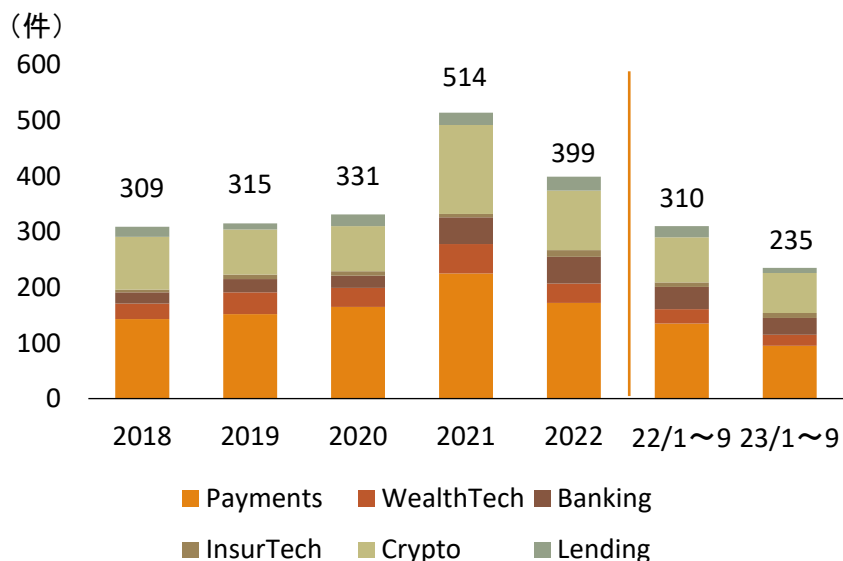
# フィンテックセクターのM&A動向

# グローバルのフィンテックM&Aトレンド

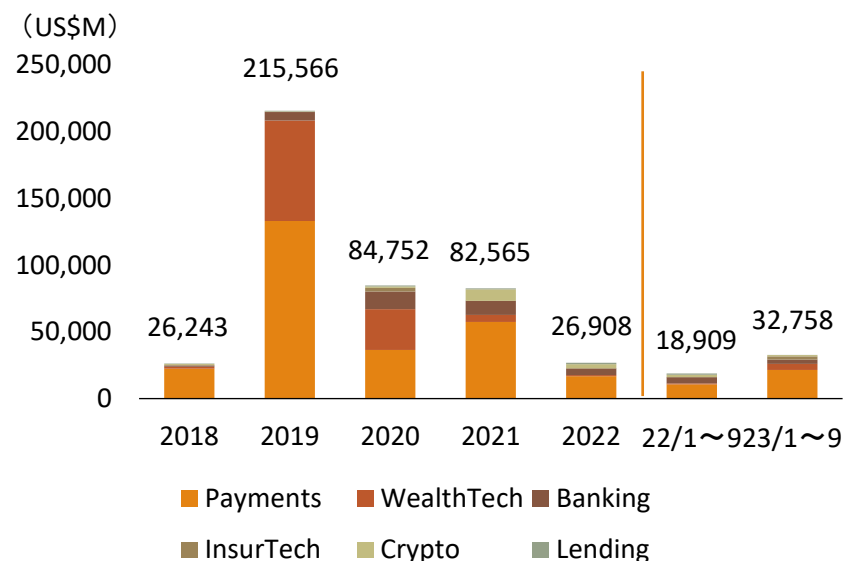
## サブセクターごとの推移

- 2023年1月～9月のグローバルフィンテックM&Aは件数ベースで236件で前年同期比24%減だが、金額ベースではUS\$35,665mで89%増
- フィンテック以外も含むM&A全体では2022年より低調だが、ファンドの豊富な投資余力を背景にした金額の大きい案件は引き続き多い
- フィンテックのサブセクターのうち、決済ソリューションは件数が安定してM&A件数が多い

■フィンテック・サブセクターごとのM&A件数



■フィンテック・サブセクターごとのM&A金額



2023年  
トップ3件  
M&A案件

取引金額

1 US\$12,700M

ターゲット

worldpay  
(決済)

買い手

GTCR  
(PEファンド)

2 US\$2,909M

Network  
International Payment Solutions  
(決済)

Brookfield  
(PEファンド)

3 US\$2,369M

Duck Creek  
Technologies  
(インシュアテック)

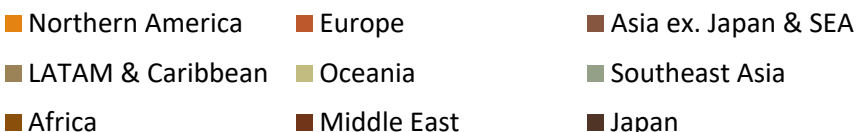
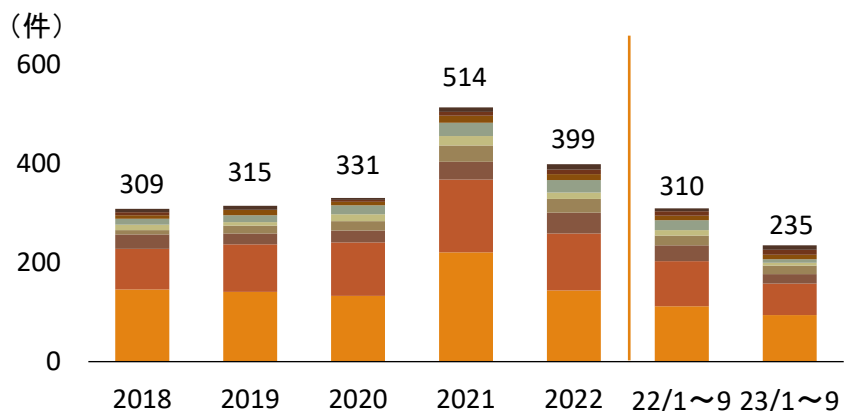
VISTA  
EQUITY PARTNERS  
(PEファンド)

# グローバルのフィンテックM&A実績

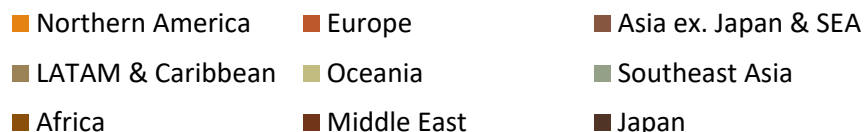
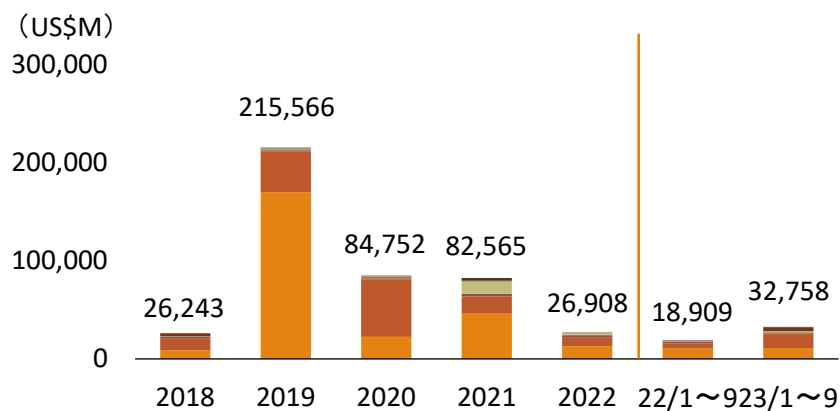
## 地域ごとの推移

➤ 北米(米国、カナダ)とヨーロッパにおけるM&A件数が比較的多く、アジア案件の増加傾向にある

### ■投資先地域ごとのM&A件数



### ■地域ごとのM&A金額



	北米	EU	アジア	ラ米	ANZ	SEA	阿	中東	日本
--	----	----	-----	----	-----	-----	---	----	----

2018	47.2%	26.5%	9.4%	2.9%	3.6%	3.9%	2.3%	1.9%	2.3%
2019	44.8%	30.5%	7.0%	5.1%	2.2%	4.4%	3.5%	0.0%	2.5%
2020	40.2%	32.6%	7.3%	5.7%	4.2%	5.4%	2.1%	1.2%	1.2%
2021	43.0%	28.6%	7.0%	6.4%	3.7%	5.3%	2.7%	1.6%	1.8%
2022	36.1%	28.8%	10.5%	7.0%	3.3%	6.3%	3.0%	2.3%	2.8%
22/1~9	36.1%	29.4%	10.3%	6.5%	3.5%	6.5%	2.9%	2.9%	1.9%
23/1~9	40.0%	27.2%	8.1%	7.2%	2.6%	3.0%	3.8%	4.3%	3.8%








	北米	EU	アジア	ラ米	ANZ	SEA	阿	中東	日本
--	----	----	-----	----	-----	-----	---	----	----

2018	33.0%	45.5%	7.6%	0.1%	1.4%	0.3%	0.0%	11.9%	0.2%
2019	78.9%	19.4%	0.5%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%
2020	26.7%	69.0%	1.4%	2.0%	0.2%	0.1%	0.5%	0.1%	0.0%
2021	56.1%	21.0%	3.1%	0.5%	14.7%	0.4%	0.3%	0.5%	3.3%
2022	48.2%	34.4%	7.2%	2.8%	3.8%	1.8%	0.0%	1.7%	0.1%
22/1~9	56.0%	27.3%	9.0%	3.9%	0.9%	0.4%	0.0%	2.4%	0.1%
23/1~9	34.1%	43.2%	0.2%	5.8%	2.6%	0.4%	0.0%	12.6%	1.0%

# グローバルのフィンテックM&A・投資実績(1/2)

## 2023年の戦略的買い手による主要案件

- ▶ 戦略的投資家が積極的にクロスボーダー案件に取り組んでいる
- ▶ グローバルに投資が低調な中でも、フィンテックセクターにおいては投資金額がUS\$100Mを超える案件が多く存在している

#	公表日	対象会社	対象会社 事業分野	買い手	投資金額	詳細
1	2023年 1月9日	 Paya Holdings	米国 決済	 Nuvei	カナダ US\$1,387M	<ul style="list-style-type: none"><li>大手決済テクノロジー企業NuveiはPayaの買収により、景気の動向に影響を受けづらい新しい分野に事業展開</li><li>Payaは主にヘルスケア、ユーティリティ、非営利・政府等の成長性が高い分野向けに決済ソリューションを提供</li></ul>
2	6月28日	 Pismo	ブラジル バンキング テクノロジー、 決済インフラ	 Visa	米国 US\$1,000M	<ul style="list-style-type: none"><li>VisaはPismoの買収を通じて、金融やフィンテック顧客にコアバンキング・イシューイングソリューションを提供</li><li>Pismoはデジタルバンクや金融機関にクラウドを使ったバンキング・カードソリューションを提供</li></ul>
3	7月20日	 Sinqia	ブラジル バンキング テクノロジー	 Evertec	米国 US\$532M	<ul style="list-style-type: none"><li>決済ソリューション企業EvertecはSinqiaの買収を通じて、Evertecの決済ソリューションをブラジルに展開すると同時に、Sinqiaのリージョナル展開をサポート予定</li><li>Sinqiaは金融業界向けにソフトウェアソリューションを提供</li></ul>
4	6月21日	 AirPlus	ドイツ 決済	 SEB Kort Bank	スウェーデン US\$491M	<ul style="list-style-type: none"><li>北欧の法人向け決済サービス企業SEB Kortは同業のAirPlusを買収。この買収により両社は欧州大手となり、相互の事業を補完</li><li>AirPlusは法人アカウント、バーチャルカード、コーポレートカード等を提供</li></ul>

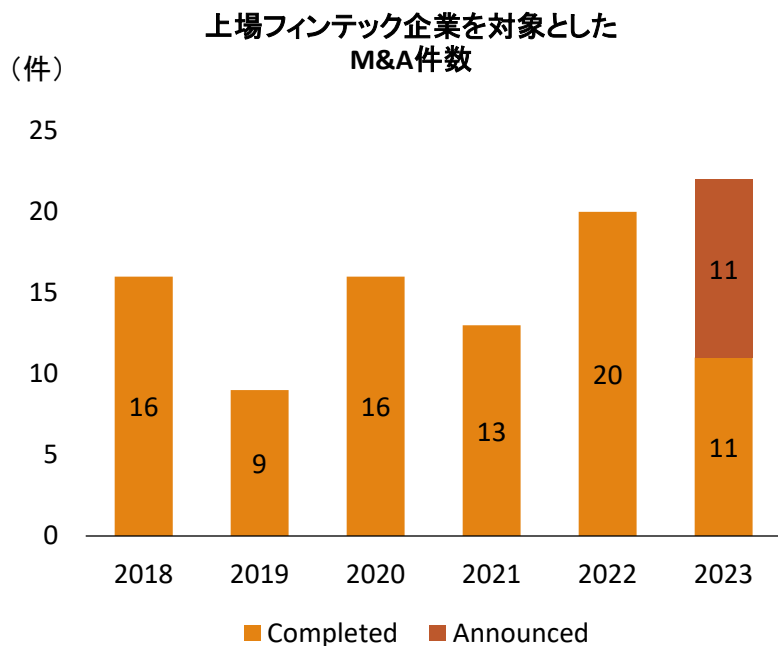
# グローバルのフィンテックM&A・投資実績(2/2)

2023年の戦略的買い手による主要案件









#	公表日	対象会社	対象会社 事業分野	買い手	投資金額	詳細
5	3月1日	 GK Software	ドイツ 決済	 Fujitsu ND Solutions	ドイツ US\$460M	<ul style="list-style-type: none"> <li>富士通の完全子会社Fujitsu ND SolutionsがSaaSプロバイダーGK Softwareを任意的公開買付けで買収</li> <li>富士通は今回の買収でクラウド事業への移行を加速。GK Softwareはリテール向けに決済や店舗管理等のクラウドソフトウェアを提供</li> </ul>
6	2月27日	 Paycomet	スペイン 決済	 Nexi	イタリア US\$295M	<ul style="list-style-type: none"> <li>イタリアのデジタル決済企業Nexiはスペイン銀行Banco Sabadellの決済子会社のPaycometの80%を買収</li> <li>Paycometはリテール決済ソリューションを提供。銀行にとって投資金額が重いこのような決済事業を売却する銀行が増えている</li> </ul>
7	1月30日	 Power Finance	米国 バンキング テクノロジー、 決済インフラ	 Marqeta	米国 US\$275M	<ul style="list-style-type: none"> <li>カードイシュー・決済企業Marqetaは初の買収案件として、クラウドでカード発行するPower Financeを買収。Power Financeのデータサイエンス能力を活用しサービスを多角化</li> <li>Power Financeは携帯やアプリ向けにクレジットカード、プロモーション、リワード等のエンベデッドファイナンスサービスを提供できる</li> </ul>
8	5月17日	 Metaco	スイス 暗号資産	 Ripple Labs	米国 US\$250M	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブロックチェーン企業Rippleはデジタル資産のカストディ業務を行うMetacoを買収</li> <li>Rippleは機関投資家向けサービスを拡充し、暗号資産含むあらゆる種類のトークン化された資産を保管、発行、決済するためのテクノロジーを顧客に提供予定</li> </ul>
9	7月27日	 UpLift	米国 レンディング	 Upgrade	米国 US\$100M	<ul style="list-style-type: none"> <li>クレジット、モバイルバンキング・決済ソリューションを提供するUpgradeは後払い(Buy Now Pay Later「BNPL」)を提供するUpliftを買収</li> <li>Upliftは航空会社、クルーズ船、ホテルチェーンなどのパートナーを通じてツアーリスト向けにBNPLを提供</li> </ul>

# 上場フィンテック企業を対象とした非上場化M&A案件

- 2023年に上場フィンテック企業を対象となったM&A案件は22件あり、2018年以来もっとも多い
- 多くのフィンテック企業が2021年に高いバリュエーションで上場したが、2022年以降株価が急落し、ファンド等の投資家がバリュエーションが下がった上場企業を相次いで買収し非上場化



## 2023年の主要案件

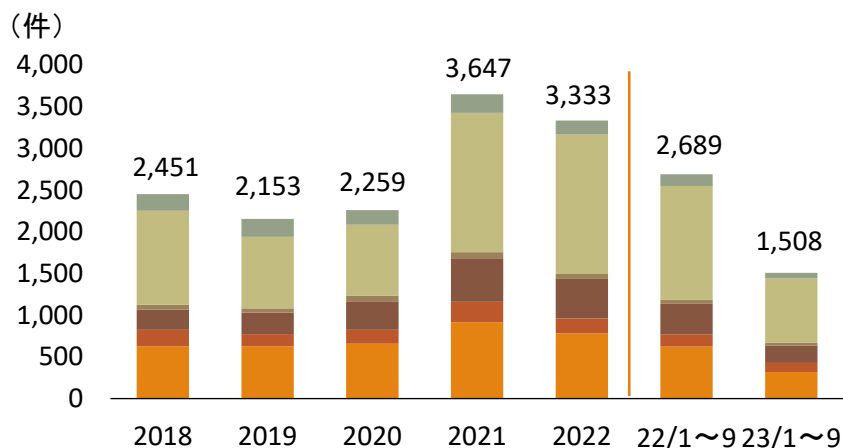
対象会社	株価最高値		買収価格
	2021年	2022年	
 	R\$30.6	R\$21.4	R\$27.2
 	US\$59.4	US\$30.4	US\$19
 	£4.48	£3.56	£4.00
 	US\$14.13	US\$9.31	US\$9.75

# グローバルフィンテック分野におけるマイノリティ出資・スタートアップ投資トレンド

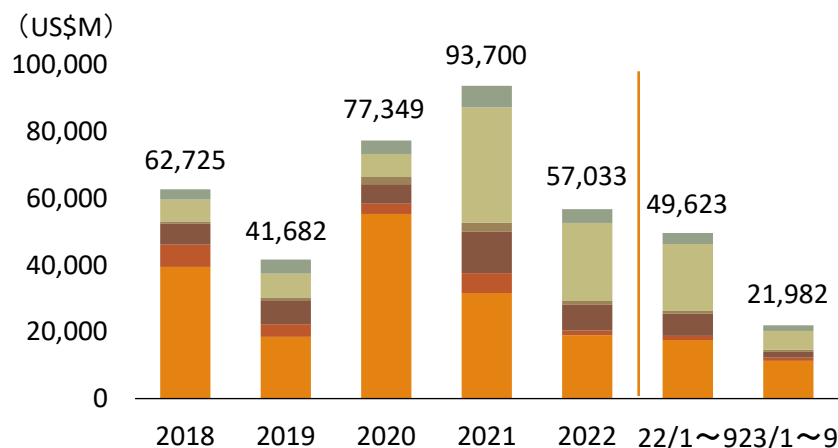
## サブセクターごとの推移

- 2023年1月～9月のフィンテックスタートアップ投資は件数ベースで1,508件で前年同期比44%減で、金額ベースでUS\$21,982mで56%減
- 2021年はグローバルで投資活動が活発だったが、2022年後半から低い傾向となった。しかし、大型資金調達ラウンドは継続している

■フィンテックサブセクターごとの投資件数



■フィンテックサブセクターごとの投資金額



■ Payments ■ WealthTech ■ Banking  
■ InsurTech ■ Crypto ■ Lending

■ Payments ■ WealthTech ■ Banking  
■ InsurTech ■ Crypto ■ Lending

2023年  
トップ3件  
マイノリ  
ティ出資・  
スタート  
アップ投  
資案件

取引金額

① シリーズI  
US\$6,870M

② US\$846M

③ シリーズC  
US\$360M

ターゲット



主要投資家

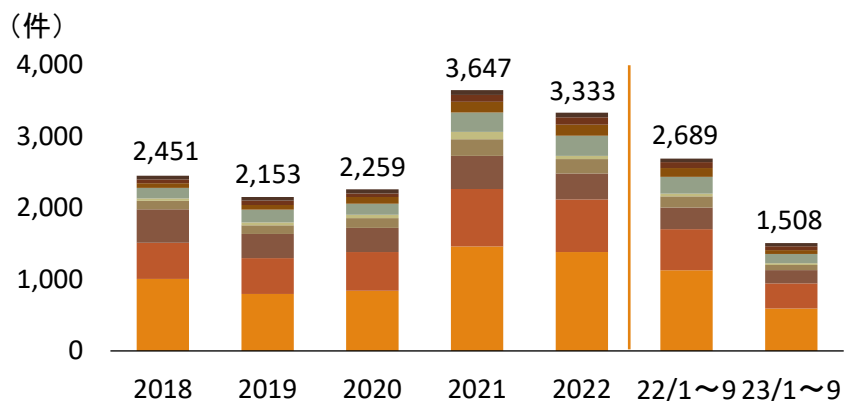


# グローバルフィンテック分野におけるマイノリティ出資・スタートアップ投資トレンド

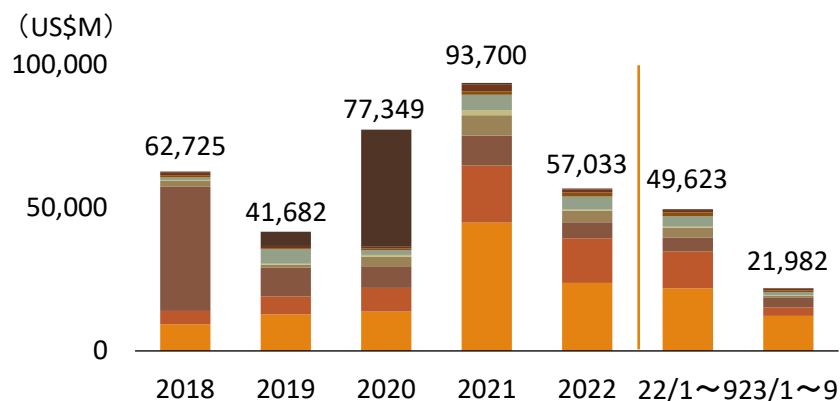
## 地域ごとの推移

▶ 北米(米国、カナダ)とヨーロッパでの件数が引き続き多く、アジア案件の割合も増加傾向にある

### ■投資先地域ごとの投資件数



### ■地域ごとの投資金額



■ Northern America    ■ Europe    ■ Asia ex. Japan & SEA  
■ LATAM & Caribbean    ■ Oceania    ■ Southeast Asia  
■ Africa    ■ Middle East    ■ Japan

■ Northern America    ■ Europe    ■ Asia ex. Japan & SEA  
■ LATAM & Caribbean    ■ Oceania    ■ Southeast Asia  
■ Africa    ■ Middle East    ■ Japan

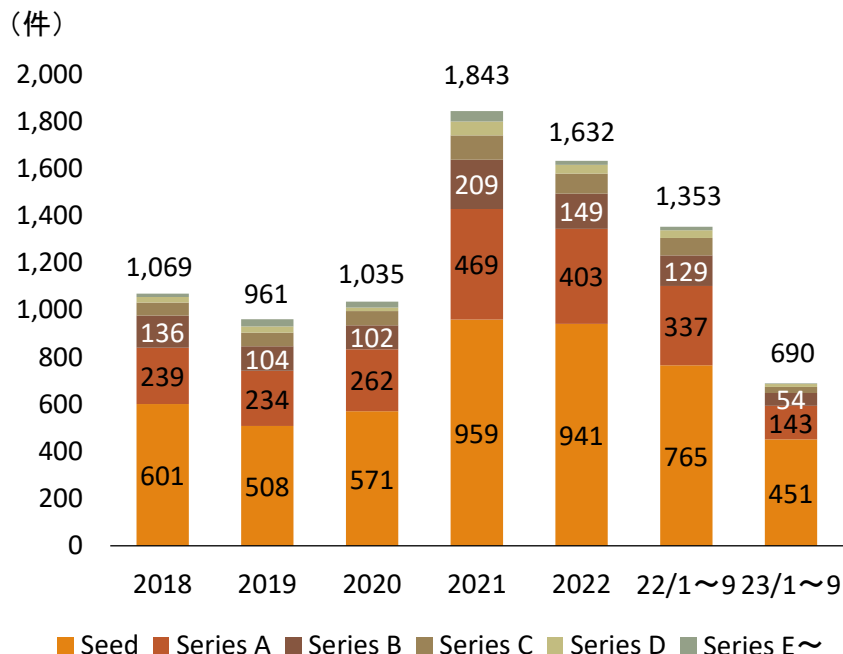
	北米	EU	アジア	ラ米	ANZ	SEA	阿	中東	日本
<b>2018</b>	41.1%	20.6%	19.1%	4.8%	1.4%	6.0%	2.7%	2.2%	2.2%
<b>2019</b>	37.1%	23.2%	15.7%	5.6%	1.8%	8.4%	3.0%	2.9%	2.3%
<b>2020</b>	37.3%	23.9%	15.0%	6.1%	2.0%	6.8%	4.2%	2.2%	2.5%
<b>2021</b>	40.1%	22.0%	12.7%	6.4%	2.8%	7.5%	4.1%	2.6%	1.9%
<b>2022</b>	41.5%	22.0%	10.9%	6.0%	1.4%	8.5%	4.6%	3.1%	2.0%
<b>22/1~9</b>	41.9%	21.4%	11.2%	5.8%	1.4%	8.8%	4.6%	3.0%	1.9%
<b>23/1~9</b>	39.3%	23.3%	12.3%	4.8%	1.7%	8.6%	3.5%	3.6%	2.9%

	北米	EU	アジア	ラ米	ANZ	SEA	阿	中東	日本
<b>2018</b>	14.9%	7.4%	69.4%	3.0%	0.4%	1.5%	1.3%	1.6%	0.4%
<b>2019</b>	30.7%	15.1%	24.0%	2.6%	0.9%	12.3%	0.6%	1.9%	11.9%
<b>2020</b>	17.8%	10.7%	9.7%	4.3%	0.9%	2.2%	0.8%	0.8%	52.9%
<b>2021</b>	47.9%	21.3%	11.2%	7.6%	1.9%	5.7%	1.3%	2.5%	0.7%
<b>2022</b>	41.9%	27.4%	9.9%	7.1%	0.6%	8.1%	2.5%	1.9%	0.5%
<b>22/1~9</b>	44.1%	26.0%	9.8%	6.9%	0.7%	7.5%	2.6%	1.9%	0.5%
<b>23/1~9</b>	55.8%	13.6%	15.8%	2.7%	0.8%	5.0%	2.8%	2.6%	0.8%

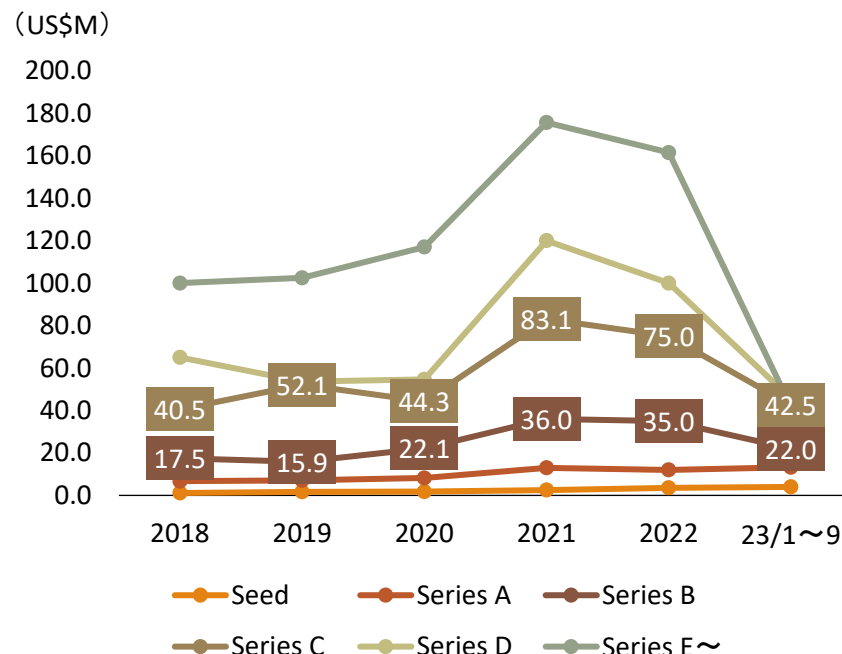
# グローバルフィンテック分野におけるスタートアップ投資の状況

- ▶ グローバルのフィンテックスタートアップによる資金調達は、スタートアップ全般のトレンドと同様に2022年後半から低調
- ▶ 投資家は新規出資に慎重であり、資金調達プロセスが延びることで一部のスタートアップの資金繰りに影響している

■ 資金調達ラウンドごとの件数






■ 資金調達ラウンドごとの調達金額中央値



# グローバルフィンテック分野におけるスタートアップ投資トレンド(1/3)





## 2023年YTDの日系企業による主要案件

- 日系金融機関・戦略的投資家が積極的にフィンテックスタートアップに投資しており、グローバルで存在感を増している
- 決済・レンディング分野への出資が多いが、その他のフィンテックサブセクターも含まれる

#	公表日	対象会社	対象会社 事業分野	日系投資家	投資金額	詳細
1	3月23日	 Kredivo	決済	みずほ銀行 (US\$125M)	US\$270M	<ul style="list-style-type: none"><li>・ みずほ銀行は後払い決済サービス(BNPL)を手掛けるインドネシアのKredivoのUS\$270MシリーズDにリード投資家としてUS\$125Mを出資。Square Peg Capital、Jungle Ventures、Naver Financial Corporation、GMO Venture Partners、Openspace Venturesなどの既存投資家も参加</li><li>・ みずほ銀行はインドネシア以外でも、2022年にフィリピンのデジタル銀行TonikのUS\$131MシリーズB、2021年にベトナムのモバイル決済会社MomoのUS\$200Mラウンドに参画するなど、東南アジアのスタートアップ投資に積極的</li></ul>
2	5月17日	 Bolttech	インシュア テック	東京海上	US\$246M	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 東京海上ホールディングスはリード投資家としてBolttechのシリーズBに参画。他に生命保険会社MetLife、マレーシア政府系ファンドKhazanah、PEファンドLeapFrogなども参画</li><li>・ Bolttechは通信会社やEコマース事業者等とパートナーし、エンベデッドインシュランスを提供。東京海上はBolttechと協働し、エンベデッドインシュランスのグローバル展開や革新的な保険加入プロセスを実現</li></ul>
3	10月4日	 Investree	レンディング	SBI ホールディングス	US\$231M	<ul style="list-style-type: none"><li>・ P2PレンディングプラットフォームInvestreeはカタールのJTA International HoldingがリードしたシリーズDをクローズ。既存投資家のSBIホールディングスも同ラウンドに追加出資。既存投資家の中に三菱UFJ イノベーション・パートナーズも含まれる</li></ul>




# グローバルフィンテック分野におけるスタートアップ投資トレンド(2/3)

2023年YTDの日系企業による主要案件

#	公表日	対象会社	対象会社 事業分野	日系投資家	投資金額	詳細
4	3月3日	 GLN	韓国 決済	三井住友信託銀行	US\$84M	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハナ銀行の子会社であるGLN Internationalは三井住友信託銀行、韓国のKB国民銀行、韓国のKakao Payments、台湾の台新銀行から資金調達</li> <li>GLNはQRコードでの決済、ATM現金引き出し、送金等のクロスボーダー金融取引のためのモバイルウォレットのグローバルネットワークとして急成長</li> </ul>
5	2月28日	 LayerX	日本 バンキング テクノロジー	三井物産、GMO VenturePartners、ジャフコグループ、Spiral Capital、三菱UFJキャピタル 等	US\$59M	<ul style="list-style-type: none"> <li>請求書処理や経費精算、法人カードを中心とした支出管理サービス「バクラク」を提供するLayerXは、シリーズAで複数の日系投資家から資金調達</li> <li>LayerXは三井物産及びその他の日系企業との合弁会社でのデジタルネイティブなアセットマネジメント事業、プライバシー保護技術で組織横断のデータ利活用のPrivacyTech事業なども開発・運営</li> </ul>
6	7月21日	 Lendbuzz	米国 レンディング	三菱UFJ イノベーション・パートナーズ	US\$45M	<ul style="list-style-type: none"> <li>Lendbuzzはクレジット履歴が限定的、あるいは全くない顧客層を中心に自動車ローンを提供する、AIベースのオートローンファイナンスプラットフォーム</li> <li>米国のフィンテック企業Group 1001がリード投資家で、既存投資家の三菱UFJイノベーション・パートナーズなども追加出資。Lendbuzzは調達した資金でプロダクトイノベーション、R&amp;D等に投資</li> </ul>
7	5月4日	 FUNDERBEAM	英国 トレーディング プラットフォーム	Mistletoe	US\$40M	<ul style="list-style-type: none"> <li>エストニアで創業したFunderbeamはアイルランドPE/VCのVentureWave、孫泰蔵氏が率いるMistletoe、米国VCのDraper Associates等から資金調達</li> <li>Funderbeamは非上場スタートアップ企業がグローバルで資金調達できるプライマリー市場と、投資家が上場株式市場と同じ感覚でスタートアップ投資ができるセカンダリー市場の機能を備えたプラットフォームを運営</li> </ul>

# グローバルフィンテック分野におけるスタートアップ投資トレンド(3/3)

2023年YTDの日系企業による主要案件

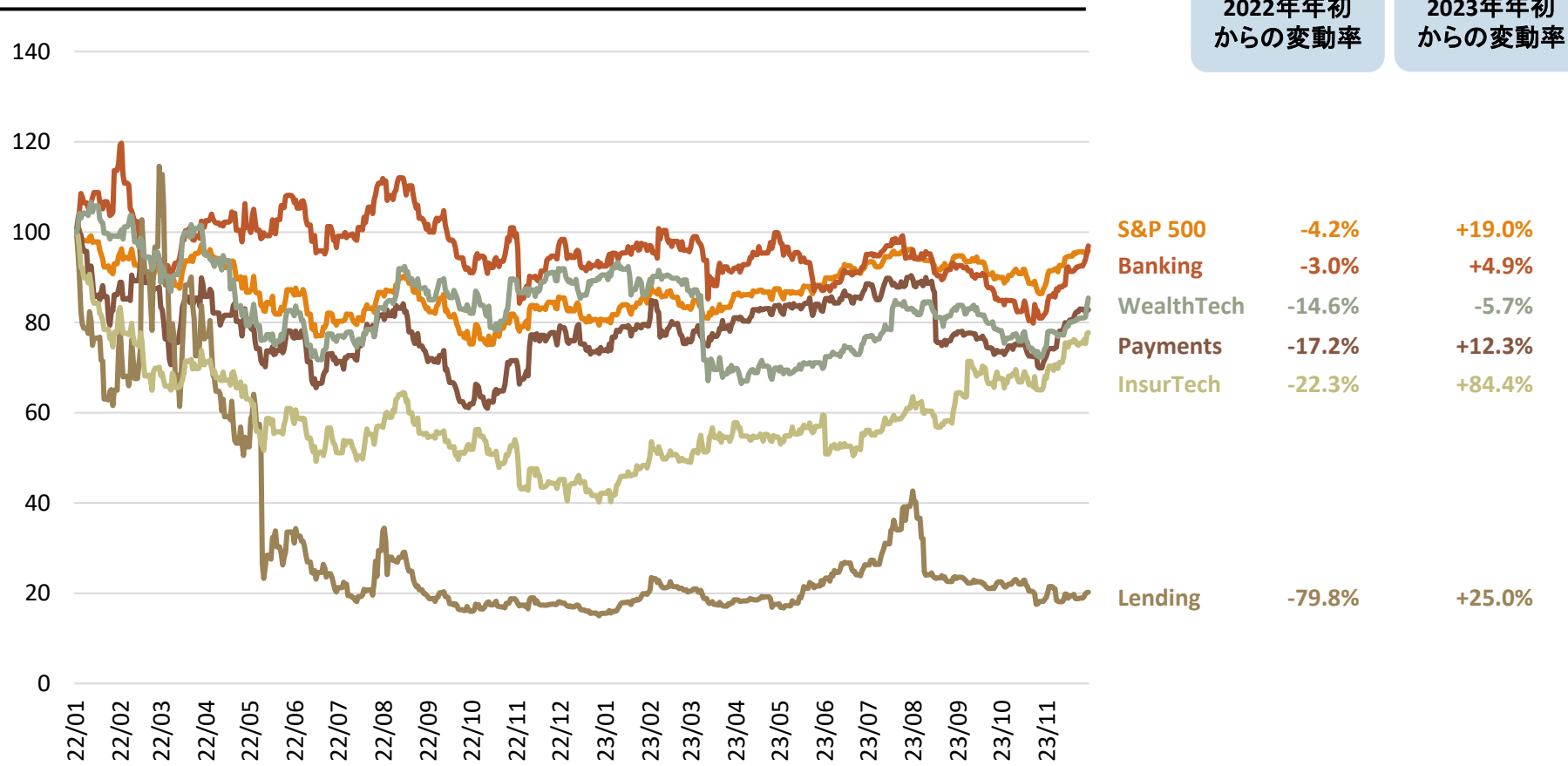
#	公表日	対象会社	対象会社 事業分野	日系投資家	投資金額	詳細
8	4月26日	 Zodia	英国 暗号資産	SBIホールディングス	US\$36M	<ul style="list-style-type: none"><li>SBIホールディングスはStandard Chartered Bankのベンチャー投資&amp;インキュベーションユニットであるSC Venturesが設立運営しているZodia Custodyに出資</li><li>Zodiaはデジタルアセットに安全かつ確実に投資することを可能とする様々なサービスを提供</li></ul>
9	1月6日	 FOLIO	日本 ウェルステック	SBIファイナンシャルサービスズ	US\$34M	<ul style="list-style-type: none"><li>AI投資ロボアドバイザー及び投資一任プラットフォームを提供するFOLIOはSBIファイナンシャルサービスズから資金調達</li><li>FOLIOは今回の調達で、マーケティングやサービス開発力を強化</li></ul>
10	4月6日	 Soft Space	マレーシア 決済	JCB(US\$5M)、トランス・コスモス	US\$32M	<ul style="list-style-type: none"><li>JCB、トランスコスモス、リード投資家のSouthern Capital、VCファンドHibiscus FundはSoft Space Sdn. Bhd.のシリーズBに参画。トランスコスモスは2017年からSoft Spaceと資本提携を行い、JCBは本件出資するとともにSoft SpaceにマレーシアでのJCBカード発行および加盟店獲得業務に関するライセンスを付与して協業</li><li>Soft Spaceは、mPOSソリューションを中心にモバイル決済サービスを提供。決済事業者などと柔軟に接続可能なクラウド型データセンターの強みを活かし、多様な決済サービスをワンプラットフォームで展開</li></ul>

## グローバルフィンテック企業のバリュエーション動向

# フィンテック各サブセクターの株価指数推移

- ▶ テクノロジー企業のバリュエーションが全体的に下がる中、フィンテックの各サブセクターの株価も下落
- ▶ 金利上昇と景気後退を背景に、ローンの需要が減っており、特にレンディングセクターにおける株価が大きく下落

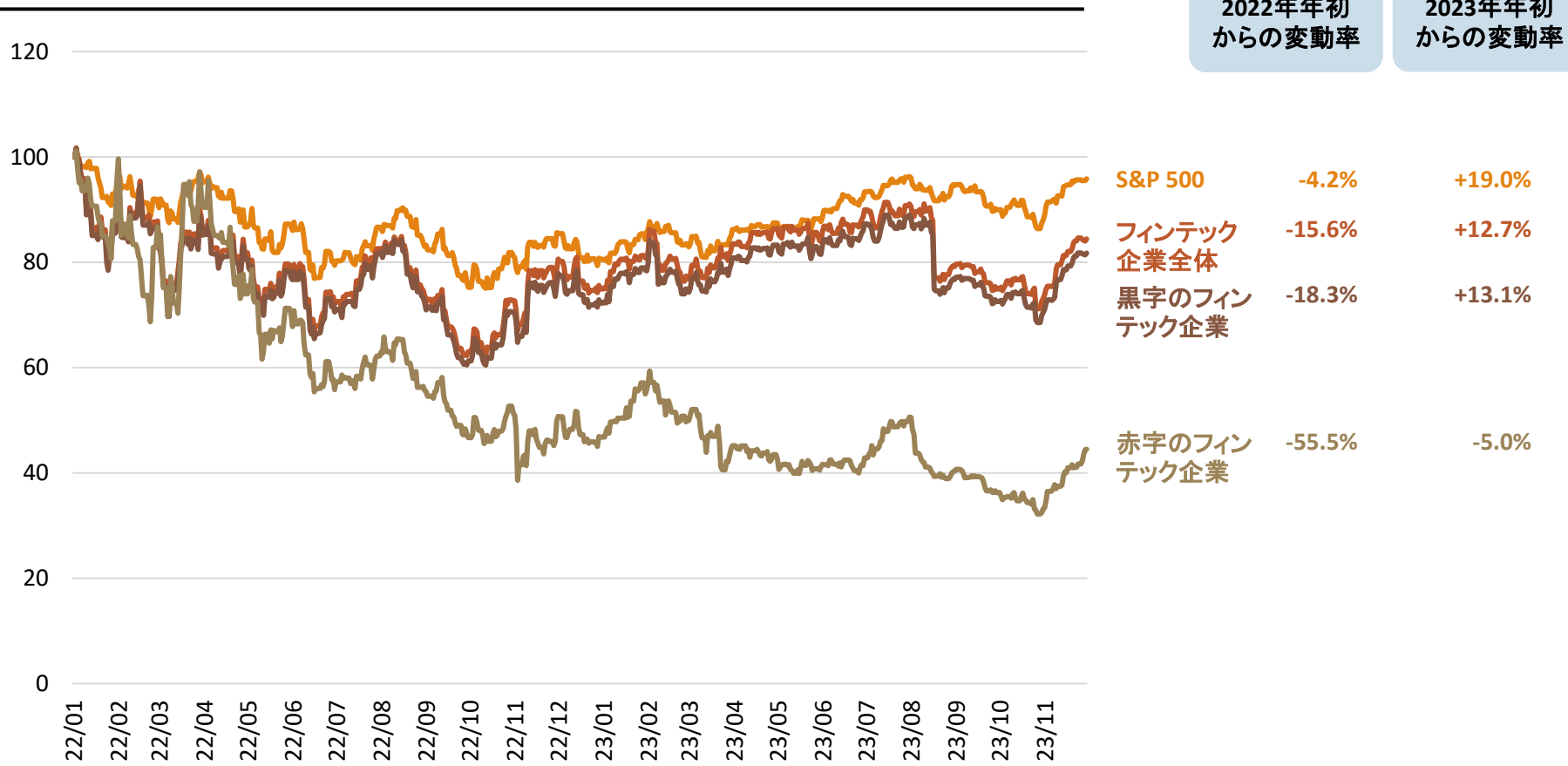
## ■フィンテックサブセクターの株価指数



# 収益性に基づいたフィンテック株価指数推移

- 足元で株式市場で収益性重視の姿勢が強まる中で、黒字フィンテック企業の株価推移は市場動向に近いが、赤字フィンテック企業は市場と比較して乖離が大きい

## ■収益性に基づいた株価指数



# フィンテック各サブセクターのEV/売上マルチプル推移

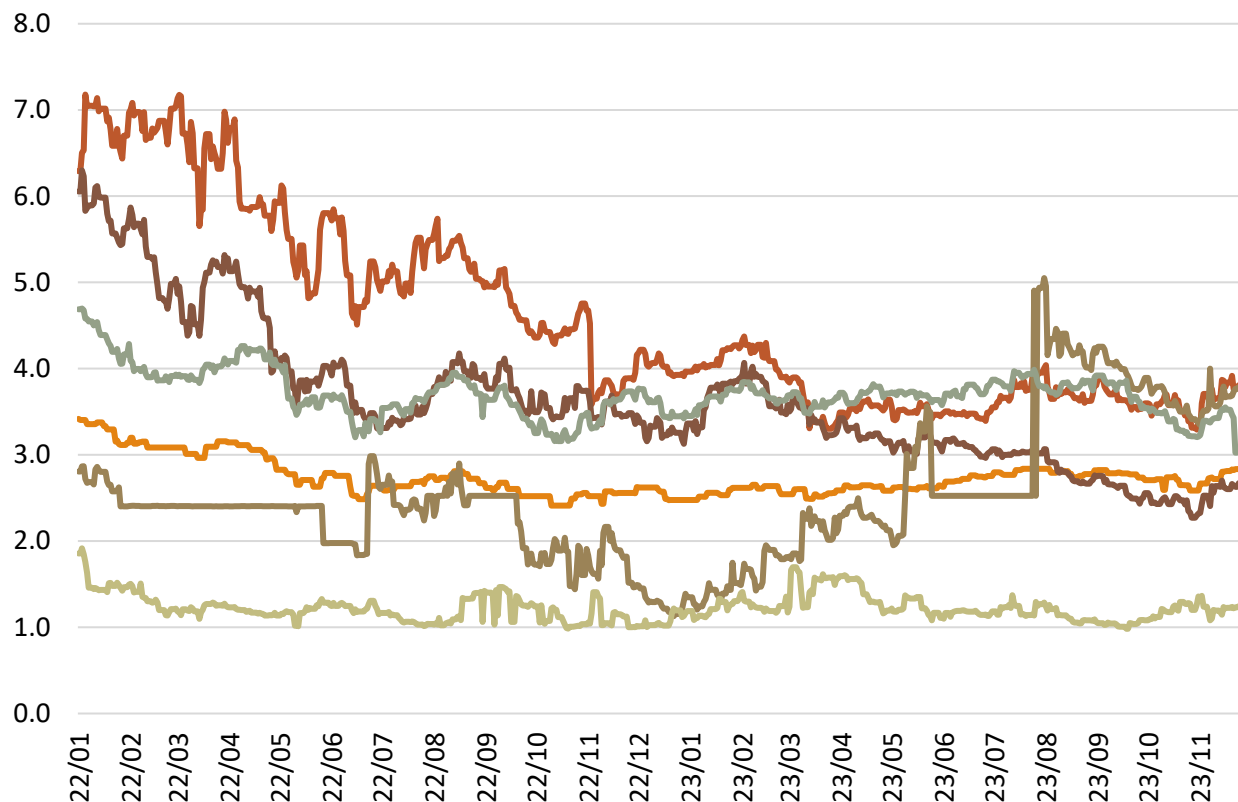
- 主なフィンテック企業のEV/売上マルチプルは2020年以降下落が続いており、足元も低調
- 低いバリュエーション市場において、買い手にとって投資の好機であるとも言える

■フィンテックサブセクターのEV/売上倍率(中央値)

2022/1/1  
時点

2023/11/30  
時点

(倍)



Lending	2.8x	3.9x
Banking	6.3x	3.8x
WealthTech	4.7x	3.1x
S&P 500	3.4x	2.8x
Payments	6.1x	2.7x
InsurTech	1.9x	1.3x

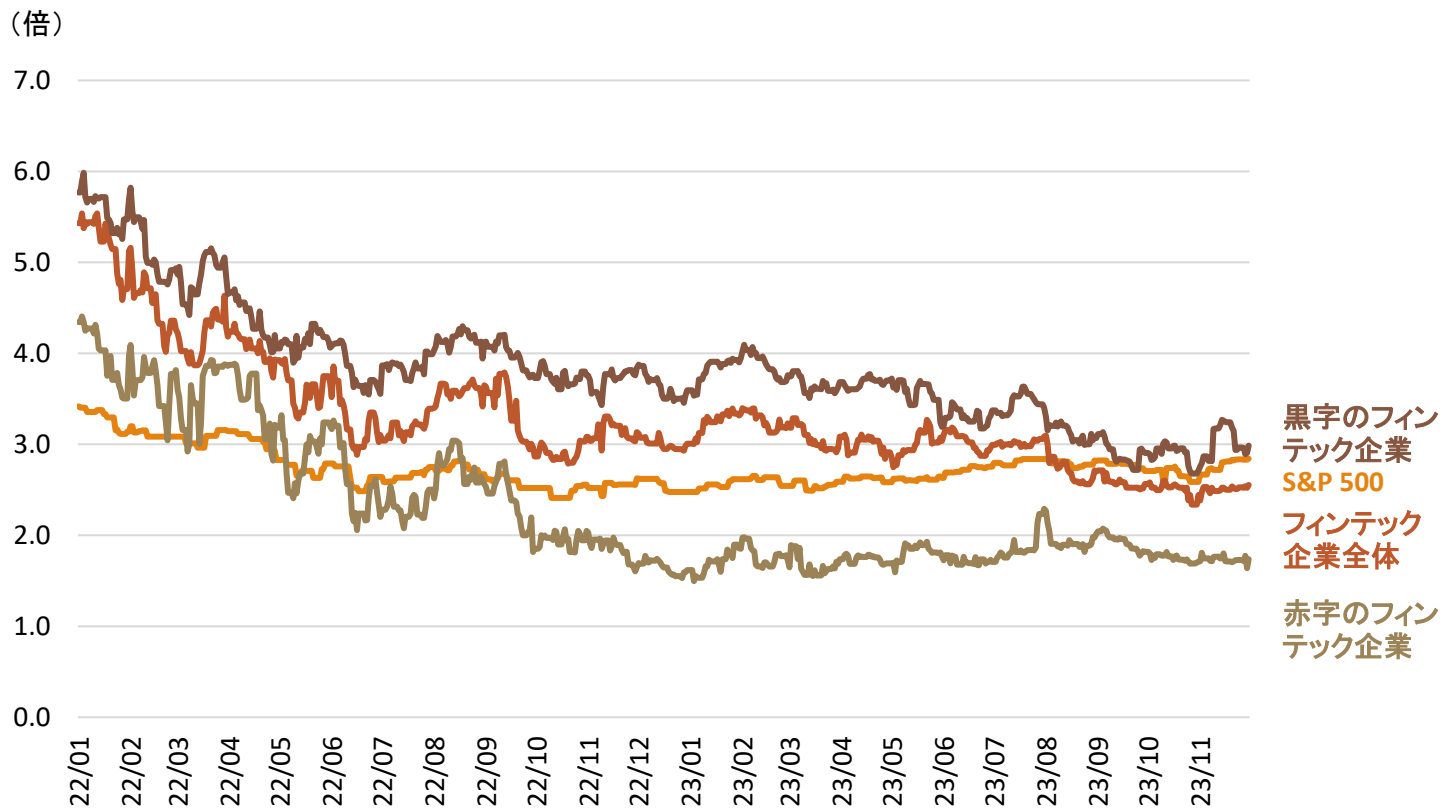
# 収益性に基づいたEV/売上マルチプル推移

- マーケット全体(S&P 500)より高かったフィンテック企業のマルチプルが足元ではマーケットより低くなっている状況
- 2022年初めと比べ赤字のフィンテック企業と黒字のフィンテック企業のマルチプルが拡大傾向にある

■収益性に基づいたEV/売上倍率(中央値)

2022/1/1  
時点

2023/11/30  
時点



# Asia Business Creation社について

# Asia Business Creationの会社概要

社名:	Asia Business Creation Pte Ltd
設立:	2021年5月
本社:	1 Phillip Street, #03-01, Royal One Phillip, シンガポール 048692
代表者:	安井 健
社員:	2名
業務内容:	M&A支援サービス、経営コンサルティング

「東南アジア・日本間のビジネス創造」

# Asia Business Creation社の特色・強み



## 東南アジア特化

東南アジア企業のアドバイザーも務める経験・ネットワーク



## セクターの専門性

テクノロジーセクターにおける経験・豊富なネットワーク



## クロスボーダーM&A専門家

日本を軸にしたクロスボーダーM&A案件の豊富なアドバイザー実績

## 成約率を上げるファイナンス シャルアドバイザー

M&Aのソーシングから取引実行、買収後のサポートまで総合的なアドバイザーサービス



# サービス内容

## M&A関連サービス



- M&A戦略立案サポート
- 事業ポートフォリオや競争環境分析に基づき、成長や競争優位を確立するための戦略立案サポート



- 市場調査及びターゲット企業スクリーニング
- ローカルネットワークを生かし、対象会社へのドアノックからサポート



- デューデリジェンス
- バリュエーション



- 買い手側、売り手側向けM&Aフルアドバイザー



- Post-Merger Integration (PMI) サポート

## 資金調達関連アドバイザー



- スタートアップ企業の資金調達サポート
- ティーザー、フィナンシャルモデル、Info Memo等の作成サポート
- バリュエーション
- 日本及び海外の戦略投資家・金融投資家にアプローチ
- 取引実行のサポート



## 事業開発コンサルティング




- 日本企業向けの海外(ASEAN/インド)市場調査
- 海外(日本/ASEAN/インド)進出・展開の戦略立案、支援



- 東南アジア企業向けの日本や他国市場調査
- 東南アジア企業向けの日本進出サポート

# 東南アジアの主要アドバイザー案件実績

 **✓STARTUP**

**PJ Bamboo**

ホスピタリティテック企業  
による  
シリーズB資金調達

Bambooのアドバイザー  
進行中

 **✓STARTUP**

**honest**

**Orico**

Honestによる  
資金調達

Honestの資金調達  
アドバイザー  
2023年11月

 **✓STARTUP**

**Gakken**  IC Net Limited

**KiddiHub**

学研HD・ICNETによる  
Kiddihubとの資本提携

学研HD・ICNETのアドバ  
イザー  
2022年4月

 **Team Metal**

**Acrotec Group**

精密エンジニアリング会  
社Team MetalのAcrotec  
への売却

Team Metalの  
アドバイザー  
2022年4月

 **✓STARTUP**

**iprice**

iPriceによるSAFEラウンド  
資金調達

iPriceのアドバイザー  
2022年3月

 **FDK**

**Energizer**

FDKのインドネシア電池  
事業子会社のEnergizer  
への売却

FDKのアドバイザー  
2020年8月

 **✓STARTUP**

**CARSOME**

Carsomeによる  
シリーズC資金調達

Carsomeのアドバイザー  
2019年12月

 **MITSUBISHI CHEMICAL**

**PT ABC Plastindo**  
The Expert of PVC & Polymer Compound

三菱ケミカルによるPT  
ABC Plastindoの買収

三菱ケミカルのアドバ  
イザー  
2018年7月

 **✓STARTUP**

**ALPHA JWC VENTURES**

ベンチャーキャピタルに  
よる日本からの  
戦略資金調達

Alpha JWCの  
アドバイザー  
2018年

 **MIRAIT**

**LanTroVision™**

ミライトホールディングス  
によるSGX上場  
Lantrovisionの買収

ミライトホールディングス  
のアドバイザー  
2016年6月

## 留意事項

本プレゼンテーションは、Asia Business Creation Pte Ltd（以下「ABC」という。）が貴社（以下「貴社」という。）の為に、貴社内部限りの利用を前提として作成したものです。本プレゼンテーションは貴社により今後実行される可能性のある一つまたは複数の取引について予備的な評価をする際の補助とすることを目的として作成されたものであり、本プレゼンテーションの内容の一部または全部を公表する権利、またいかなる第三者に対しても開示する権利を貴社に付与するものではありません。本プレゼンテーションは、貴社と協議する際の資料としての使用の為にのみ作成されたもので、ABCによる口頭説明によって補完され、かつ、その説明との関連においてのみ考察されるべきものです。ABCの事前の書面による同意なしに、本プレゼンテーション及びその内容を他のいかなる目的にも使用することはできません。

ABCは、公共の情報源から入手した情報、その他ABCが独自に入手・検討した情報が、すべて正確かつ完全であることを前提として作成されたものであり、当該情報は貴社が本取引を進めるか否かを評価するために必要とする可能性のあるすべての情報を含むとは限りません。ABC並びにその役員、取締役、従業員、代理人、および関係者は、本プレゼンテーションに含まれる情報（将来の予測、事業の予測、見込みまたは利益に関する成果または合理性を含む。）または貴社もしくはそのアドバイザーに対して書面もしくは口頭で提供されるその他一切の情報の正確性、完全性、クオリティ、妥当性または適切性に関し、現在または将来において、明示的にも黙示的にも表明または保証を行わず、義務または責任を負わず、かつ、それら一切の責任は明示的に免責されるものとします。本プレゼンテーションに含まれる一切の情報に関し、ABCは独自の検証を行っていません。

本プレゼンテーションの内容は、法律、税務、規制、会計、または投資に関する助言または勧告として解釈してはならないものとします。貴社を含むいかなる受領者も、本取引に関する法的事項その他関連事項に関し、独自のカウンセラー、税務アドバイザー、財務アドバイザーと相談すべきです。本プレゼンテーションは、すべての情報を網羅することを意図しておらず、また、貴社が必要とする可能性のあるすべての情報を含むことを意図していません。